

平成28年度 福井県立大野高等学校定時制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	<p>a 生徒の状況をふまえ、個別支援を丁寧に行うなど基礎学力の定着を図る。生徒の自律的な活動を充実させた授業の実践・研究に努める。 [目標] ・生徒理解協議会（年3回）と公開授業週間（年2回）の実施 ・2年次の授業は、生徒の実態に応じた講座展開で実施 ・授業や考査などの評価法の改善</p> <p>b 教職員間および保護者との連携を強化し、教育効果を最大限発揮できる教育活動に努める。 [目標] ・教育効果を高める年間行事の調整や作成 ・保護者懇談会を年4回実施 ・未履修を抑制するために毎月の欠課時数を通知</p>	<p>a 生徒理解協議会では、外部団体と連携した事例研究会を行った。公開授業は、予定以外でも中学生の授業見学を行った。教職員が個別に生徒の状況を把握し指導できた。教科指導の研究協議に課題が残った。2講座展開で行う授業については従来通り均等2分割で実施したが、引き続き検討する必要がある。教科ごとの特性はあるが、定量的な評価基準については、おおむね共通理解が得られた。意欲や態度など定性的な分野の評価のあり方を更に検討する必要がある。</p> <p>b 自立的な力を育むことを念頭に昨年度より系統的に行事計画を調整し、一定の成果を上げることができた。各部との連携を強化し改善を図りたい。懇談会でカウンセラーとの面談を積極的に実施できた。保護者との意思疎通を図ることができた。6月の懇談会は具体的な就職指導の開始前となるため改善が必要である。昨年度に比べ未履修科目数は約2割減少したが、不登校生徒への指導を更に検討する必要がある。</p>	<p>a 個別支援を充実させるために、学校設定科目の新設や平成30年の通級導入に向けての研究を行う。また、個別指導の事例に関する研究会を継続的に行う。教科指導の改善を全日制とともに協議する。 講座の展開形式の検討も進めるが、学習能力に格差がある状態を前提とした分かりやすい授業の構築を検討する。 定性的な分野の評価のあり方を具体的な事例に基づき検討をすすめる。</p> <p>b 各行事の意義を十分把握させ自立的に行動させる環境となるように計画・準備を進める。 夏休み直前に就職を希望する生徒の保護者と懇談する機会を新設する。 保護者とカウンセラーとの面談を計画的に行う。 適応指導委員会と連携を深め、不登校生徒の指導をきめ細やかに進行。</p>
2 生徒指導	<p>a 問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努め、人格形成を図る。また、保護者の理解と協力を求めながら基本的な生活習慣を身につけるよう努める。 [目標] ・生徒講話や登校指導などを行い、生徒に対する声かけ指導の実施 ・家庭訪問やいじめ対策会議（12回）など全教職員体制で実施</p> <p>b 学校行事や生徒会行事を工夫し、生徒の自主性を重視して集団活動の活性化を図る。 [目標] ・文化祭・体育祭、新入生歓迎会・卒業生を送る会など縦割り集団や異年齢の生徒との交流 ・部活動の練習と参加機会の工夫</p>	<p>a 日常的にモラル意識とマナー向上を図り、一方で「いじめ」や問題行動に対しては早期発見・早期対応に努め、全教職員による対策委員会やサポート班を機敏に開催し、関係機関や保護者との連携を密にして取り組んだ。</p> <p>b 学校行事の企画・準備に生徒会が積極的にに関わり、新たな生徒会行事として「冬の遠足」を実施することができた。部活動で生徒の希望と実態に応じて、活動や他校との合同練習を工夫し、春季総体・新入生大会の双方で優秀な成績を収めることができた。</p>	<p>a 「いじめ」や生徒同士のトラブルを繰り返す生徒に対しては、対策委員会やサポート班を開催し全教職員の共通理解を図り、家庭や関係機関との連携をさらに密にし、引き続き粘り強く指導する。</p> <p>b 1・2年次生の授業が基本的に2講座で展開し、4年次生が増える中で、学校行事や生徒会行事の運営を工夫し、生徒間の縦横のつながりや人間関係を深めていくことができるように工夫する。</p>
3 就労 進路指導	<p>a ハローワーク等関係機関との連携を図り生徒の就労を支援する。また、雇用主との連絡を密にして就労状況の把握に努める。 [目標] ・在校中の就労率向上と就労の定着のため、生徒との面談を全職員体制で実施</p> <p>b 就職関連情報を提供するとともに、就労体験や進路対策テスト等を工夫し進路意識の高揚を図る。 [目標] ・職場見学、専門学校見学の実施 ・インターンシップ、ソーシャルスキルトレーニングの効果的な実施 ・卒業時に全生徒の進路決定</p>	<p>a ハローワーク等の関係機関との連携を図り生徒の就労先の紹介に努めた。また、産業人材コーディネーターを通じて雇用主との連絡を取り、生徒の適性に合った就労先の確保に努めた。さらに、福井県若者サポートステーションとの連携で、一般就労が困難な生徒の職場体験を行った。しかし、各学年に就労していない生徒があり、今後さらに生徒の適性に合わせたきめ細やかな就労先紹介が必要である。</p> <p>b 職場・専門学校見学会や職場体験を実施することによって、生徒の進路意識の高揚を図った。さらに、今年度は卒業した先輩を招聘して「卒業生と語る会」を実施し、生徒の進路意識を刺激することに成功した。今年度の卒業生は全員進路決定を達成したが、在校生の中には、進路に対する意識がまだ希薄な生徒があり、早期の対応が必要である。</p>	<p>a 進路・就労調査を定期的に実施し、生徒の状況を的確に把握し、さらに個別の面談を通じて生徒のきめ細かな希望を聞く体制を整える。また、校内の就労支援訓練（校内内職）をさらに充実させ、校外の就労につなげたい。また、定期的に就労先訪問を実施し、雇用主との連絡を密にして、生徒の就労状況の把握に努める。</p> <p>b 職場見学・専門学校見学会・卒業生と語る会・インターンシップの事前指導・事前学習・事後学習を充実させ、主体的に進路行事に参加できるように工夫する。ソーシャルスキルトレーニングをさらに充実させる。卒業予定者に対しては、早期の段階から就職・進学対策（求人票の見方、面接・履歴書指導）を実施し、就職に不安を抱える生徒には積極的にインターンシップに参加させる。</p>
4 保健管理	<p>a 継続的な指導を通じて、清掃活動・校内美化の意識向上を図る。また、「保健だより」や保健講演会等により健康に関する意識の高揚に努める。 [目標] ・全教職員による毎日の清掃指導の実施 ・保健講演会年2回の実施</p> <p>b スクールカウンセラーや外部機関と連携し、生徒個々に対応した教育相談体制の充実を図る。 [目標] ・スクールカウンセラーによる全校生徒に対する面談の実施 ・ケース会議や適応指導委員会の適切な運営</p>	<p>a 教職員の声かけにより、清掃時には、ほとんどの生徒が清掃活動にしっかりと取り組めた。しかし、自分の机の周りやロッカーが散らかったままの状態の生徒もいた。</p> <p>b 元気チェックなどで、生徒の状況を把握し、それに合わせた「保健だより」を定期的に発行するなどの啓発活動ができた。 不適応をおこしている生徒に関しては、SC、SSWや関係機関と連携してケース会議などを行い支援体制ができた生徒もいるが、支援体制のできていない生徒もあり、今後は、適応指導委員会で協議し、関係機関と協力しながら考えていく必要がある。</p>	<p>a 落ち着いた学校生活を送ることができるよう、学習環境を整えることの大切さを継続して指導する。整然と片付いている状況が当然のものとなるように、全教職員が日々の声かけを継続的に進行。</p> <p>b 教職員間で生徒の情報交換を密に行い、生徒の心に寄り添った対応に努める。特に気がかりな生徒については、適応指導委員会で具体的に個別の支援計画を立て、継続的に生徒を支援する体制を作る。</p>
5 情報管理	<p>a 情報処理システムについてCAI機器の更新に伴う研修会を実施し、教職員の情報処理能力と情報管理意識の高揚に努める。 [目標] ・情報処理システム説明会の実施 ・ICT機器の活用とホームページの充実</p> <p>b クラウド化に対応した情報セキュリティーやSNSの利用の仕方について理解を深める。 [目標] ・情報モラルやネットトラブルに関する意識を高めるために具体的な事例の情報提供を毎月（12回）実施</p>	<p>a 情報処理システムについて、昨年更新したCAI機器を活用して、情報を始め国語・英語・数学・地歴・公民などでICT対応の授業を行うことができるようになり、また成績管理や毎月の出席状況確認も継続して行うことができた。さらに、各種説明会や集会、行事などでもプロジェクターやデジタルカメラ等の情報機器を積極的に活用できた。</p> <p>b 情報モラルやネットトラブル対策について、具体的な事例の提供を適宜継続して行うことができた。</p>	<p>a 情報処理システムについて、更新機器に伴う研修を継続的に実施し、有効活用を積極的に推進するとともに、教職員の情報処理能力の向上を引き続き図る。</p> <p>b 情報モラルやネットトラブルに関する意識を高めるため具体的な事例の情報提供に努める。また、SNSの利用の仕方によって引き起こされる問題に対して、全教職員が細心の注意を図り、早期発見・早期対応を図る。</p>